

科 目 名	日本語演習Ⅰ
科 目 の 概 要	初級～初中級レベルの漢字語彙力を集中的に高める授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
漢字語彙力養成①	参照枠 : A1 JLPT:N5～N4 (入門～初級)	漢字入門期に漢字学習のストラテジーを身に付け、基礎的な漢字語彙と漢字の書き方を習得することを目的とします。 具体的には、初級メインテキストで学ぶ 日本語能力試験 N4・N5レベルの漢字語彙の意味と読みを修得し、さらに拓殖大学独自のKコード学習法を用いてN4・N5レベルの漢字を正しく書けるようにすることを到達目標とします。
漢字語彙力養成②	参照枠: A2～B1 JLPT:N4～N3 (初級～初中級)	ごく日常的な場面で使用される基本的な漢字語彙を習得することを目的とします。 具体的には、初中級テキストで学ぶ日本語能力試験N4・N3レベルの漢字の意味と読み書きを修得し、さらにN3レベルの漢字語彙の読みと意味がわかるようにすることを到達目標とします。

科 目 名	日本語演習Ⅱ
科 目 の 概 要	レベルに応じた文字語彙力を集中的に高める授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
文字語彙力養成①	参照枠：A2以上 JLPT：N4～N3 (初級～初中級)	漢日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を読んで理解するのに必要な文字・語彙・文法といった日本語能力試験N3レベルの言語知識を身につけることを目的とします。 上記の内容を扱うために必要な文法形式や統語形式についての知識、常用漢字、語彙を習得することを到達目標にしています。
文字語彙力養成②	参照枠：A2～B1 JLPT：N3～N2 (初中級～中級)	日常的な場面に加え、新聞・解説・平易な評論を読んだり、ニュースや議論を聞いたりするために必要な文字・語彙・文法といった日本語能力試験N2レベルの言語知識を身につける準備をすることを目的とします。 上記の内容を扱うために必要な文法形式や統語形式についての知識、常用漢字、語彙を習得することを到達目標にしています。
文字語彙力養成③	参照枠：B1～ JLPT:N3～ (中級以上)	日常的な場面に加え、新聞・解説・平易な評論を読んだり、ニュースや議論を聞いたりするために必要な文字・語彙・文法といった日本語能力試験N2レベルの言語知識を身につけることを目的とします。 上記の内容を扱うために必要な文法形式や統語形式についての知識、約1000の常用漢字、約7000の語彙を習得することを到達目標にしています。
文字語彙力養成④	参照枠：B2～ JLPT：N2～ (中上級以上)	幅広い内容の新聞・評論・論説文を読んだり、ニュースや講義を聞いたりするために必要な文字・語彙・文法といった日本語能力試験N1レベルの言語知識を身につけることを目的とします。 上記の内容を扱うために必要な文法形式や統語形式についての知識、約2000の常用漢字、約10000の語彙を習得することを到達目標にしています。

※日本語能力試験公式資料を参照し、作成

科 目 名	日本語演習Ⅲ
科 目 の 概 要	レベルに応じた口頭表現力を集中的に高める授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
口頭表現力養成①	参照枠：A1～A2 JLPT：N5～N4 (入門～初中級)	日本語らしい発音、特に韻律の習得に基づいた日常会話力の獲得を目的とします。具体的には、日常的な場面の会話、短いスピーチが自然な速度でできるように練習します。 教室外であっても日常生活のありふれた場面なら、日本語らしい発音でやりとりができることを到達目標とします。
口頭表現力養成②	参照枠：B1～B2 JLPT：N3～N2 (中級～中上級)	自分の興味・関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について明瞭で詳細な説明ができ、また、時事問題についても、長所、短所を示して自身の考えを説明できることを目的とします。 具体的には、授業中に発表の練習を繰り返して口頭表現力を高め、大学等進学後に、ディスカッションやプレゼンテーションができるようになることを到達目標とします。
口頭表現力養成③	参照枠：B2～ JLPT：N2以上 (中上級以上)	複雑な話題であっても、派生的な話題にも立ち入って詳しく論じることができ、適切な結論でまとめることができることを目的とします。 具体的には、授業中に発表の練習を繰り返して口頭表現力を高め、大学、大学院進学後に、社会問題や自身の専門の分野について、ディスカッションやプレゼンテーションができるようになることを到達目標とします。

科 目 名	日本語演習Ⅳ
科 目 の 概 要	進路・目的に応じた日本語のスキルの向上を目指す授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
日本語 スキルアップ①	参照枠：A1～B1 JLPT：N5～N3 (初級～中級)	基本的なパソコンの操作を学び、ITリテラシーを身につけることを目的としています。 具体的には、日本語環境のIT機器で日本語入力を学び、日本語で情報検索をし、メール・文書・PPTの作成技能を向上させ、将来の進路に役立つスキルを身につけることを到達目標とします。
日本語 スキルアップ②	参照枠：B1以上 JLPT：N3以上 (中級以上)	大学の学部に進学し、自律的に学習するために必要な日本語力を身につけることを目的とします。 具体的には、志望する大学の入学願書などの出願書類を作成するとともに、日本留学試験（EJU）の「記述」問題に対応し、高等教育の場にふさわしい構文や語彙・表現を適切に使用して、主張・結論を支える根拠を示して多角的な視点で考察する力を身につけることを到達目標とします。 ※日本留学試験公式資料を参照し、作成
日本語 スキルアップ③	参照枠：B2以上 JLPT：N2以上 (中級以上)	日本での就職活動をする際に求められる知識や実践的な日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。 具体的には、基本的なビジネスマナーを学び、就職面接や代表的な仕事の場面で敬語を含んだ対話ができ、履歴書・メールのやりとりなど定形書式や適切な表現が使えるようになることを到達目標とします。

科 目 名	日本語演習 V
科 目 の 概 要	レベルに応じた文法知識を確実に身につけ、実際に運用できるようになることを目指す授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
文型運用力養成 ①	参照枠：A1～A2 JLPT：N5～N4 (初級～初中級)	初級レベルの日本語の文法知識を確実に身につけ、使えるようになることを目的とします。具体的には、日本語能力試験N4に合格するための文法知識を習得し、学習した文型や表現を使って、日常生活に必要な簡単な会話をしたり、簡単な情報を聞き取ったり、短い文を作って書いたりできるようになることを到達目標とします。
文型運用力養成 ②	参照枠：A2～B2 JLPT：N4～N2 (初中級～中級)	中級レベルの日本語の文法知識を確実に身につけ、使いこなすことができるようになることを目的とします。具体的には、日本語能力試験N3に合格するための文法知識を習得し、学習した文型や表現を会話や作文、発表などのアウトプット活動においても使えるようにし、自分のことばで表現できるようになることを到達目標とします。
文型運用力養成 ③	参照枠：B1～C1 JLPT：N3～N1 (中上級～上級)	上級レベルの日本語の文法知識を確実に身につけ、使いこなすことができるようになることを目的とします。具体的には、日本語能力試験N2・N1に合格するための文法知識を習得し、学習した文型や表現を会話や作文、発表などのアウトプット活動においても使えるようにし、高度に運用できるようになることを到達目標とします。

科 目 名	日本語演習Ⅵ
科 目 の 概 要	進路・目的に応じた日本語の文章表現力・リテラシーの向上を目指す授業です。

【授業の目的と到達目標】

	【参考レベル・対象】 日本語教育の参照枠 JLPT	目的と到達目標
文章表現力養成①	参照枠：A1～B1 JLPT：N5～N3 (初級～初中級)	生活の中で必要となる「書く活動」を通じ、基礎的なコンピューターのライティングリテラシーを身につけ、アウトプット力を高めることを目的とします。具体的には、生活の中で必要な書類や手紙の書き方、履歴書、SNSの書き方等を学び、PPTを作って発表するなどの活動を行います。生活の中で必要な書類への記入が楽にでき、コンピューターなどを使用し、身近な話題や興味・関心があることについて書けるようになることを到達目標とします。
文章表現力養成②	参照枠: B1～ JLPT:N 3 以上 (中級以上・ 大学進学者)	大学進学を希望する学生を対象に、大学に合格できる日本語力を身につけ、大学進学後に必要な情報検索の力・論理的な文章を書く力を身につけることを目的とします。具体的には、志望理由書や入学願書準備し、面接練習を行います。また、進学後、毎日の授業についていけるように、総合的な日本語力のレベルアップを目指すことを到達目標とします。
文章表現力養成③	参照枠: B 1 ～ JLPT:N 3 以上 (中級以上・ 大学院進学者)	上級レベルの日本語の文法知識を確実に身につけ、使いこなすことができるようになることを目的とします。具体的には、日本語能力試験N2・N1に合格するための文法知識を習得し、学習した文型や表現を会話や作文、発表などのアウトプット活動においても使えるようにし、高度に運用できるようになることを到達目標とします。